

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-154	12-318	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
The effects of alcohol and sexual arousal on determinants of sexual risk in men who have sex with men. 男性と性的関係を持つ男性における性的なリスクの決定要素としてのアルコールと性的刺激の効果		
執筆者		
Maisto SA, Palfai T, Vanable PA, Heath J, Woolf-King SE.		
掲載誌		
Arch Sex Behav.2012 Aug;41(4):971-86. doi:		
キーワード		
性的刺激、男性、性的関係		
要旨		
目的： 性的なリスク行動を対象とする一次予防運動は大変重要である。本研究は、男性と性的関係を持つ男性（MSM）の間で、性的なリスク習性の仮定された決定要素の上での、アルコール中毒と性的刺激の効果、またアルコールによる性的期待とコンドーム使用に対する態度を同様に調査するようデザインした。		
方法： 参加者は、21-50歳の117人のMSMであり、飲料投与（水コントロール群、プラセボ群または血中アルコール濃度を.07%まで上げるアルコール群）と性的刺激（低いか；参加者がエロチックでない映画を見る、高い；少しエロチックな映画を見る）の組合せによる6群の実験的な条件に無作為割付けされた。参加者は2つの実験的なセッションに参加した。第1セッションは性に対するアルコールの効果についての信条と性的な満足に対するコンドームの効果に対する態度についてアンケートに記入した。第2セッションは飲料状態と性的興奮処置を含んだ。その後、参加者は高い性的リスクシナリオを表している2つの双方向テレビを見て、それに回答した。参加者はCARE（リスク知覚の測定）を施行した。		
結果： 従属変数は行動技術（安全でない性を持つ意図）、「リスクへの暴露」（ビデオに反応する）であった。性的刺激と期待による性的なリスクに対するアルコールの効果の仮定された強化が、計画的および探索的分析の結果により示された。また、予測されたようにコンドームの装着に対する姿勢は危険への暴露と意図の直接的な関係を示した。		
結論： 性的なリスクに対するアルコールの効果のモデルのため意義とHIV予防介入の開発のための本研究の意味について考察した。		